

ものづくりと ちえづくりのための チームづくり



医療機器開発で勝てる
One Teamに必要な
PlayerとSupporterとは？



2020 3/2 月

時間 15:00 - 20:30 (14:30 開場)
会場 日本橋ライフサイエンスハブ
参加費 無料

15:00 開会挨拶・参加者の紹介

15:05 来賓挨拶

厚生労働省医政局経済課 課長補佐 新谷 幸子
AMED 産学連携部 医療機器研究課 調査役 鈴木 友人

15:15 講演



国産医療機器創出促進基盤整備等
事業を振り返って

国立がん研究センター
理事長特任補佐 荒井 保明

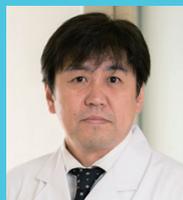
15:30 講演



次世代医療機器連携拠点整備等
事業の狙い

国立循環器病研究センター
名誉所員 妙中 義之

15:45 関東3拠点連携の狙いー各拠点の強み
と連携によるシナジー効果ー



国立がん研究センター東病院 筑波大学
NEXT医療機器開発センター つくば臨床医学研究
手術機器開発室 室長 開発機構長
伊藤 雅昭 荒川 義弘



東京女子医科大学
先端生命医学研究所
副所長 村垣 善浩

16:45 パネルディスカッション

司 会：日本医工ものづくりコモンズ 谷下 一夫
医療機器センター 鈴木 孝司

パネリスト：国立がん研究センター 荒井 保明
国立循環器病研究センター 妙中 義之
スタンフォード大学 池野 文昭
関東3拠点代表 他

18:25 講演



医療機器開発に必要な多様な人材
～米国の成功事例から学べることは？
米国のマネをすればうまくいくのか？～

スタンフォード大学 主任研究員
池野 文昭

19:00 情報交換会

イベント趣旨

医療機器開発は、「ものづくり」と「ちえづくり」(知財・薬事・保険・ビジネス戦略)だといわれます。医療機器産業を日本の産業基盤にしていきたい政府の思惑とは裏腹に、なかなか成功事例を積み重ねられない日本における医療機器開発。国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)が次世代医療機器連携拠点整備等事業で採択した日本国内の14拠点は、各拠点がそれぞれ特色ある取り組みを行っています。本事業では、単施設では難しい医療機器開発を拠点内、拠点間、拠点外との連携を促進し、オールジャパンでの医療機器開発を促進することを事業の趣旨としています。昨年のラグビーワールドカップでOne Teamをキーワードに史上初のベスト8入りを果たしたラグビー日本代表。One Teamは、様々な能力を有したPlayerはもちろんのこと、Playerを陰に日向に支え続けたSupporterによって成り立っていました。医療機器開発で勝てるチームづくりに必要なPlayerとSupporter、そしてそれぞれの立場の連携の在り方について、医療機器開発の先人たち、関東3拠点のメンバー、本事業の関係者が、聴衆を巻き込み熱い議論を交わします。

会場へのアクセス

日本橋ライフサイエンスハブ

東京都中央区日本橋室町 1-5-5
室町ちばぎん三井ビルディング 8階
東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前」直結



参加申し込み

下記サイトよりお申込みください

<https://medicaldevice-0302.peatix.com>

※ウェブサイトでの申し込み期限: 3月2日 9:00



お問合せ

一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン (LINK-J)

TEL:03-3241-4911 (平日 9:00-17:00)

E-mail:contact@linkj.org web:www.linkj.org



各拠点の特色

国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院

事業代表者: 伊藤 雅昭

国立がん研究センター東病院は、これまで医薬品の治験について日本最多クラスの実験経験を有しており、臨床研究に対する支援体制は国内トップクラスにあります。また現在は特定機能病院、国立高度専門医療研究センター、臨床研究中核病院、がんゲノム医療中核拠点病院として、がん領域において高度な医療を提供し、革新的なエビデンスを発信しています。さらに2017年5月には、NEXT 医療機器開発センターを開設し医療機器開発体制の整備を進めてきました。NEXT 医療機器開発センターは、大手医療機器メーカー、大手シンクタンク、スタートアップ、医療機器審査の経験者やエンジニア、ジャパンバイオデザインのフェローなど、多彩な人材を擁し、がんの診療過程をシームレスに網羅した診断・治療・緩和における医療機器開発拠点として、次世代の開発人材育成と成果創出に繋げるべく、様々な領域(個人情報保護、データハンドリング、知財、薬事など)の専門家による院内・院外向けのセミナー、本邦の医療機器開発の活性化に資するシンポジウムの開催、臨床現場観察の受入れ、院内外の医療者や企業からの開発相談、その後のPMDAへの相談支援に積極的に取り組んでいます。

国立大学法人 筑波大学 事業代表者: 原 晃

「つくば」は、産総研や物材研等を始めとする約150の国立/民間の研究所、2万人以上の研究者を有する研究学園都市です。筑波大学は、2017年度よりAMED 橋渡し研究戦略的推進プログラム拠点として、医師、企業R&D経験者、規制当局経験者等の多様なスタッフを有しており、シーズ相談、TPP作成、臨床研究、出口戦略などの「ワンストップ支援」を実施しています。加えて、レギュラトリーサイエンス講座、グローバル医薬品医療機器開発マネジメント講座、医療アントレプレナー育成プログラム Research Studioなど、多方面からの「実践的プロフェッショナル人材養成」にも注力しております。TR教育推進センターの経験豊富なチームによるハンズオンでの伴走支援の下、既存の枠組みと経験を最大限に活用し、臨床現場見学実習・ニーズ調査・開発相談等に取り組みながら、『国際展開可能な次世代医療機器の研究開発人材育成』の実現を目指します。工作室、細胞加工施設、ヒト対象とした実証試験も可能なレンタルラボスペース等の設備も有しており、患者との距離が近い環境で人材育成・共同研究等における成果創出を追求します。

学校法人 東京女子医科大学 事業代表者: 村垣 善浩

東京女子医科大学では、国産医療機器創出促進基盤整備等事業で5年間拠点整備を行い、医療機器の企業 Finisher を創出する座学・実学融合プログラムでは、セミナー2580名、シンポジウム920名、臨床現場見学1351名の計4851名の方々にご参加いただきました。次世代医療機器連携拠点整備等事業ではプログラムをさらに強化させ、国内の医療機器産業をより活性化し、世界を席巻する本質を掴んだ医療機器開発の基盤構築により、『持続可能な医工融合 Finisher 輩出システム』の実現を目指しています。具体的には、受講者の知識レベルに応じた複数コースのセミナー開催および高度医療機器への重点化、臨床現場見学の診療科・拠点の拡大および充実化、ニーズ収集検討プログラムでの意見交換の充実化、アイデアを迅速に形にするものづくり工房の利用拡大および充実化、を行っています。これらの取り組みに加えて、本学の50年以上の医工学教育の歴史を持つバイオメディカル・カリキュラム(BMC)や国内初の医師主導治験での経験・知識、医工融合による医療機器開発を通して培ってきたノウハウを活かすことで、世界展開できる機器を利益に変換する人材(Finisher)を多く輩出していきます。